

第15回記念ミュージカル公演
「ビートオブタイム〜不思議な転校生とぼくらの時間〜」

創造の翼を広げて

市内の小中高生を中心に活動するミュージカル劇団「ドリーム☆キッズ」の第15回記念ミュージカル公演「ビートオブタイム〜不思議な転校生とぼくらの時間〜」(市、市教育委員会、公益財団法人登米文化振興財団主催)は9月9、10の両日、登米祝祭劇場で開かれ、詰め掛けた大勢の観客を魅了した。



「劇団ドリーム☆キッズ」の公演が、今回で15回の節目を迎えた。団員は市内と近隣市町の小中高生で構成され、今回の公演には団員以外の準キャストを含め、38人が出演している。

運営や広報、舞台道具や衣装の製作など、ほとんどの役割を保護者や地域のボランティアが担う。年1回の公演に向けて、子どもと大人が1年がかりで準備をしてきた。

5月に脚本が完成し、オーディションをしてキャストが決まった。演劇集団「おむらいすファクトリー」を主宰する渡部三妙子さんのオリジナル。登米市をモチーフにした町で、忙しい日常に振り回されながらも、自分の時間を取り戻す子どもたちが描かれている。

団員は本番に向け、夏休みを返上して練習を積み重ねた。セリフ、動きや歌詞など、覚えることは数え切れない。思い通りの演技ができず、悩んだ団員も少なくない。それでも「つらいと思ったことはありませんでした。ミュージカルの楽しさと、笑って話せる仲間がいつもいたから」と団員たち。重圧を乗り越え、見事な成果を披露、舞台は大成功のうちに幕を閉じた。

功のうちに幕を閉じた。舞台はキャストだけでは成り立たない。団員たちは「スタッフや、活動の場を作ってくれた市民や財団があるから、ミュージカルができる」と話す。舞台は、役者と裏方の思いと力が一つになった時に成功する。ドリーム☆キッズは15回の公演を続け、年々レベルアップ。演者としても、人としても成長している。劇団、支援者、財団という羽が一つになった「文化創造の翼」は、これからも羽ばたき続ける。

文化祭の台本を書いていたみどりに話し掛ける転校生のももこ。2人は劇を成功させるため、クラスメートたちに参加を呼び掛ける。2役者をメークする団員OG。裏で支える人がいなければ舞台は成立しない。人間の平和を守るドリーム・レンジャーと海の女神モモザン。台風が呑み込まれたところで、みどりが作るストーリーは止まっていた。1人で何役もこなすキャスト。かなたの影だったミスターXに寄り添う中学生になったドリーム・レンジャー。感動のクライマックス。取り戻した時間の花がステージに舞い散る。

あらすじ
明日から夏休みが始まるというのに、水の里中学校2年2組に転校生がやってきた。彼女の名前は、夢風ももこ。不思議な女の子だ。ももこといると、みんなほっとする。イライラしている子も寂しい子も、一緒にいるだけで笑顔に



Negoro Ami

「みどり」を演じた根来 亜未さん
(佐沼中3年 追町錦西)

自分らしさ演技に
「みどり」の性格や行動が私と似ていたから、勝手に役にイメージを固め、悩んだことも。本番では自分らしさを出し、気持ちをお客さんに届けられたと感じています。今後もドリーム☆キッズ一員として活動し続けます。

大切な仲間へ感謝
高校合格のご褒美に、ドリーム☆キッズに2年前入団。大好きな演技やダンスで壁にぶつかったとき、乗り越えられたのは、仲間のおかげです。進路の関係で、今回が最後の舞台。自信を持って演技することができました。



Goto Mizuki

「ももこ」を演じた後藤 美月さん
(志津川高3年 南三陸町戸倉)

遠藤 真世さん
／愛実ちゃん
追町大網東
歌も演技もとても上手で、感動しました。暗い場所が苦手な娘も、夢中でステージにきげ付け。エンディングで、キャストが涙を流しながら歌っていたのが印象的でした。



Endo Masayo / Ami

那須野 公美さん
／煌くん
石巻市蛇田
一人一人の力量の高さを感じました。たくさん練習を積み重ねてきたのが伝わり、キャストの輝いた表情でこちらも笑顔に。すてきな公演と時間をありがとうございました。



Nasano Kumi / Kou

なった。子どもたちと、ももこの夢のような夏が始まってすぐ、灰色の影が楽しく大切な「時間」を奪っていく。部活や習い事で忙しい子どもたちが、自分の時間を取り戻すために立ち上がる。登米の豊かな大地に見守られながら、大切な時間を取り戻す物語。